

めぐみイエス・キリスト教会

2018年8月5日(日)第一主日礼拝
週報「通算第417号」



2018年標題聖句

使徒の働き27章22節～26節

《「しかし、今、お勧めします。元気を出しなさい。あなたがたのうち、命を失う者はひとりもありません。失われるのは船だけです。昨夜、私の主で、私の仕えている神の御使いが、私の前に立って、こう言いました。『恐れてはいけません。パウロ。あなたは必ずカイザルの前に立ちます。そして、神はあなたと同船している人々をみな、あなたにお与えになったのです。』

ですから、皆さん。元気を出しなさい。すべて私に告げられたとおりになると、私は神によって信じています。私たちは必ず、どこかの島に打ち上げられます。』》

第一主日礼拝	毎週日曜日	午前10時～11時
第二主日礼拝	毎週日曜日	午後6時～6時45分(8月より)
聖書研究・祈祷会	毎週水曜日	午後6時15分～7時15分

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2018年8月5日(第一主日)

第一礼拝 午前10時～11時

第二礼拝 午後6時～6時45分

(一) 司会 鈴木竜実牧師 奏楽 佐野みゆさん

(二) 司会 鈴木竜実牧師 奏楽 鈴木竜実牧師

◎礼拝プログラム

【前奏始祈】

【賛美Ⅰ】 新聖歌258「墨よりも黒き心なれど」p. 402

【交読文】 No.8 詩篇第24篇 p. 885

【賛美Ⅱ】 新聖歌332「主は真のぶどうの木」 p. 528

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナルNo.14 「み言葉に帰ろう」

【聖書朗読】 ヨハネの福音書15章3節～5節(新約p. 193)

【祈 禱】

【説 教】 《私にとどまりなさい》 鈴木 竜実 牧師

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌291「神の国と神の義」 p. 465

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所(ヨハネの福音書15章3節～5節)

15:3 「あなたがたは、私があなたがたに話した言葉によって、もうきよいのです。

15:4 私にとどまりなさい。私も、あなたがたの中にとどまります。

枝がぶどうの木についていなければ、枝だけでは実を結ぶことができません。同様にあなたがたも、私にとどまっていなければ、実を結ぶことはできません。

15:5 私はぶどうの木で、あなたがたは枝です。人が私にとどまり、私もその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。私を離れては、あなたがたは何もすることができないからです。」

●ポイント1 旧約聖書における「ぶどうの木のたとえ」とは？

※イザヤ書5章1節～7節前「主なる神と民イスラエル」(旧約p.1038下段)

●ポイント2 「ぶどうの木と枝の関係」とは？

※ローマ人への手紙11章17節～18節「使徒パウロの理解」(新約p.281)

11:17 もしも、枝の中のあるものが折られて、野生種のオリーブであるあなたがその枝に混じってつがれ、そしてオリーブの根の豊かな養分をともに受けているのだとしたら、

11:18 あなたはその枝に対して誇ってはいけません。誇ったとしても、あなたが根をささえているのではなく、根があなたをささえているのです。

●ポイント3 「主イエス様にとどまること」とは？

※黙示録3章20節「主と囲む食卓」(新約p.441)

3:20 見よ。私は、戸の外に立ってたたく。誰でも、私の声を聞いて戸をあけるなら、私は、彼の所にはいって、彼と共に食事をし、彼も私と共に食事をする。

※マタイの福音書4章4節「荒野の悪魔の誘惑での主の答え」(新約p.4)

4:4 イエスは答えて言われた。「『人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つの言葉による。』と書いてある。」

※ガラテヤ人への手紙5章22節～23節前「多くの実とは？」(新約p.339)

5:22 御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、

5:23 柔和、自制です。

◎先週のメッセージの概要【ぶどうの木のとえ】

《主イエス様と十一人の弟子は、いまだヨハネ・マルコの家の二階にいます。イエス様に残された時間は、あと約12時間くらいだと思われれます。夜が明けて午前9時には十字架にかけられ、午後3時には、死んで行かれるのです。

さて、ヨハネの福音書13章から17章までは、まさに主の弟子たちへの遺言とも言うべきものです。その中にたくさんの真理が含まれていますが、一番伝えたいメッセージは二つなのです。一つはイエス様が約束されたことです。「私は、あなたがたを捨てて孤児にはしません。私は、あなたがたのところに戻って来るのです。いましばらくで世はもう私を見なくなります。しかし、あなたがたは私を見ます。私が生きるので、あなたがたも生きるからです。」

さてイエス様は突然「ぶどうの木のとえ」をなさいました。実は多くの訳が誤訳とも言えるのです。つまり「主はぶどうの木で、私たちは枝であり、農夫である父なる神は、実を結ばない枝を取り除かれる」と訳されているのです。

これは、日本のぶどう園とイスラエルのぶどう園とのイメージが異なっていることから起こった可能性があるのです。日本のぶどうの名産地である勝沼では、まるで屋根のように枝が高く張り巡らせています。しかしユダヤ地方のぶどう園は、枝を地面に這わせているのです。またユダヤでは、ぶどうの木の枝が成長するには、何年もかかるそうです。枝を全部、地に這わせていますから、時々雑菌などによって病気になり、実がならない枝があるようです。

そのような枝を見つけますと、切り取るような、そんなもったいないことは絶対にしません。どうするのかと言いますと、地面から持ち上げて石で支えるのです。そうすると、やがて枝が癒やされて、また実がなり始めるそうです。

「取り除く」と言うギリシャ語は、実は三つの意味を持っています。「運ぶ・持ち上げる・支える」です。日本語訳は、最初の「運ぶ」という意味を選択して、「取り除く」と訳したのです。私たちの神様は、そんなお方ではありません。

そして、もう一つのメッセージは「私にとどまりなさい」と言うことです。そのことを「たとえ」によって教え、また命じられ、強く願っておられるのです。》

◎お知らせ

1. 次回第2主日礼拝は、8月12日(日)午前10時からと午後6時からです。祈禱会は8月8日(水)午後6時15分です。8月22日(水)はお休みとなります。
2. 鈴木師は、8月7日(火)下妻朝禱会で奏楽と特別賛美伴奏を担当します。